

代 表 者

沖
田

視 察 報 告 書

令和 5 年 2 月 22 日

会 派 代 表 者 様

呉市議会議員 沖 田 範 彦

次のとおり行政視察及び陳情活動を行ったので報告します。

1. 調査期日

令和 5 年 2 月 7 日 (火) ~ 8 日 (水)

2. 陳情先

衆議院 防衛施設等の誘致等について

3. 調査項目

(清水建設株式会社 本社)

地下 8 0 0 m を利用した海水揚水発電システムについて

4. 参加議員

沖田範彦議員

●陳情活動

・ 期日

令和5年2月7日（火） 15:00～17:00

・ 陳情先

衆議院

石橋 林太郎議員

・ 陳情内容

防衛施設等の誘致等について

以前に、防衛施設等の呉市への誘致や、海上自衛隊呉基地の見直し及び活用等について、石橋議員へ情報提供等を行ったところであるが、このことに関する防衛省へ対しての働きかけの継続をお願いするとともに、関係国会議員への意識啓発並びに協力が得られるよう相談をいただいた。

●視察調査

東京都中央区（清水建設株式会社）

・ 調査項目

地下800mを利用した海水揚水発電システムについて

・ 調査対応者

清水建設株式会社 土木営業本部 副本部長（技術士） 栃山 広幸

清水建設株式会社 技術研究所 センター長（工学博士） 浅田 素之

清水建設株式会社 土木技術本部（工学博士） 福田 和寛

・ 視察同行者

筑波大学 システム情報系 構造エネルギー工学域 教授（工学博士）

石田 政義

株式会社JSC総合研究所 代表取締役 会長 岡地 慶直

・ 調査期日

令和5年2月8日（水） 13時00分～15時00分

・調査目的

大深度（地下800m）空洞揚水発電システムの調査・研究を行い、今後のエネルギー施策の検討や、地域での取り組みなどに役立てる。

・視察内容

このたびの調査は、株式会社JSC総合研究所の岡地氏より、筑波大学教授の石田先生を紹介していただいたことで実現できた。

石田先生は、次世代燃料と言われている水素の研究を行っておられる。

先生から、これからは原子力発電を利用しなくても、再生可能エネルギーである水力による発電量の確保ができ、その方法について清水建設株式会社が取り組んでいることを伺い、先生から当該事業者の紹介を受けることにより、今回の視察が行えることとなった。

事業者から説明を受けた揚水発電は、地下800mに大空洞を設け、そこへ水や海水を落とし込み発電するもので、1施設当たり、原子力発電所1基分に相当する100万kwの発電が可能であるとのことで、資料を見たところ、私が主張する「休山の地下構想」と並行して検討できるものであり、加えて、脱炭素社会の実現に大いに寄与できる施設であった。

日本では、今のところ、沖縄県内での実証事例があるとのことで、当該事業者は、海外での施工実績を有している。

今後、この技術が、国策として取り組まれることに期待しているとのことであった。

【呉市での展開の可能性】

呉市においては、休山の地下だけでなく、呉市が所有する「グリーンピアせとうち」の敷地（地下）が適地として考えられ、この技術は、将来に夢を持てるものと考えており、大いに期待したい。